

ばばだめ！  
JTサンダーズ広島  
竹田 英司



東京大会初日、金子聖輝選手がセッターとして初めて先発した試合を白星で飾った。私が記念に動画を撮影しようとして提案したところ、金子選手が渋り、坂梨朋彦コーチが「せっかくの記念日だから撮ってもらいな



背番号14の熊倉允選手を中心に  
今季14勝目を祝う (7日)

## 緊張の初先発飾る白星

よ」と諭した。私がスマホを構えると、不意に井上慎一朗選手がそれを奪って撮影し始めた。こういう不器用な優しさが、野性的な慎一朗選手の魅力だ。

金子選手に試合を振り返ってもらった。「春高(全日本高校選手権)の決勝戦より緊張しました。(坂下)純也も同じことを言っていました」。2人とも春高で最優秀選手に輝いている。それほど経歴があっても、Vリーグの初先発は別格の緊張感らしい。

第2戦はフルセットの末に勝利。古巣のFC東京相手に奮戦した山本将平主将がインタビューを受けていると、手違いで「タイムアウト！」と大音声が続いた。戸惑う山本主将に選手たちがタイムを要求するポーズで優しく見守った。

選手と一緒に戦おう、との思いでロジャーズ海選手のユニホームを借りて試合に臨む私を見た深津旭弘選手が「英ちゃん(深津選手は時々私をこう呼ぶ)、俺のユニホームも貸してあげるよ」。武智洸史選手も「僕のも使ってください」と言ってくれた。私なら洗って返されても他人に服を貸したくない。勝っただけでなく、優しい息子たちに囲まれた幸福感に東京で包まれた。

(JT広島マネジャー)